

兵庫県医師会医療支援チーム（第5陣）「宮城県災害支援現地報告」

理事 江草 康夫

第5班として、31日（木）から4月2日（土）2泊3日で 宮城県医療支援に行っていました。

31日 空地先生、事務局3名と、山形空港に到着、OS1を求めながら、タクシーにて石巻中学校の避難所へ向かいました。2時半に到着、現地の、谷澤副会長、藤末先生、大杉先生、事務局名と交代し。藤末先生から申し送りを受けました。兵庫県行政、県医師会、石巻日赤（アセスメントシート、前日の患者集計）に、その日のデータを、毎日報告しなければなりません（事務局）。

5月1日のスケジュールは、7時と18時から石巻日赤での石巻地区全体のミーティング、8時半から同じエリア4担当の新潟県のチーム（2～3チーム）と、情報交換を兼ねたミーティング。診療所では、9時から12時、15時から17時まで、診察です。薬は、たくさんありますが、需要とのバランスに問題があります。

我々兵庫県からのチームは、医師は2泊3日、看護師は3泊4日、事務局は4泊5日です。もうできあがっているスケジュールにのって働けばいいと思っていましたが、そうでもありません。

主任を空地先生に任せて、外回りを主に担当しました。1日（金）は、少し落ち着いた10時頃から、電気、ガス、水道のない、住吉小学校を視察。校庭は泥に覆われており、なんとも暗い雰囲気です。

日本看護協会からの看護師が2名、避難所の医療を引き受けていました。（薬は、売薬だけです）。

2日（土）、前日、島根県、益田の日赤から依頼のあった、住吉小近くの、グループホームを、10時頃から巡回。（場所がわからなくて大変、信号は、消えているし、道の両側はごみ袋の山）エリア4の朝のミーティングで、地元の保健師さんから依頼のあった2件の巡回診療と、新たにできた避難所、公民館と図書館の視察に、11時過ぎから、看護師1名、事務1名とともに徒歩にて出発。多忙な、医療支援活動でした。

この頃の、急性期の患者さんは、インフルエンザはゼロ、感染性胃腸炎少々、咳風邪がほとんどで、皆さん夜に、症状が悪化してました。避難所では、ほとんど動かない老人も多く、DVT（深部静脈血栓症）が心配され、エリア4のミーティングで、血栓予防のための運動のパンフレットを配布しました。

まとめ。

- 状況が激しく変化するため、フレキシブルな対応が求められる。
- チームワークが大切（滞在中、極めて良好でした）
- 申し送りが大切。
- 問題としては、避難所の運営者と、コミュニケーションがないことでした